

『六 然 (りくぜん)』

最近、読んでいる書籍にこう書いてあった。

自處超然 自ら処すること超然

處人蕩然 人に処すること蕩然

有事斬然 有事のときには斬然

無事澄然 無事のときには澄然

得意澹然 得意のときには澹然

失意泰然 失意のときには泰然

自分には一切捕らぬすに脱けきってあり
人に対してはいつもなごやかに好意を持ち
何か事があれば活気に充ち
事がなければ水のように澄んであり
得意の時はあつさりして
失意の時はゆるりしてある

真の自由人たるはこのような境地に自らを置く
人のことを言うのだから。

私の修養、修行の目指すところである

感謝

アウル 宮崎直人